

学校目標	高いプロ意識を持ち、お客様とのコミュニケーションを第一に、専門的な知識と技量の向上に努め、社会で自立し活躍する理容師・美容師を育成する。 (現場で評価され信頼される理容師・美容師を育成する)
生徒目標	・プロを目指し、プロとして振る舞い、プロになる ・お客様に喜ばれ、満足され、信頼されるステキな理容師・美容師となる
学校テーマ	キレイのプロはTORIBIで生まれる

評価項目	現状と課題	目標達成のための方策	改善の方策(中間・最終評価時)	評価
1 教育課程編成	○「理容師・美容師養成施設における養成課程の標準的なカリキュラム」(厚生労働省)に則った教育課程の編成を継続する。 ○選択必修科目には、トータルビューティを学ぶ授業を継続して開講するとともに、ビジネススキルの基礎となる「ビジネスマナー」も設置し、社会人としての教養や将来の専門分野に関する選択幅を拡げている。 ○国家試験科目を中心に学びの強化を図る。	○国家試験受験に必要な教科科目の履修と修得を達成し、全員が国家試験を受験するように努める。 ○国家試験の結果を謙虚に分析し、一層の向上を目指し授業改善や試験対策に活かす。 ○学生全員が理美容技術の幅広い基礎を学ぶことを意味する本校の「トータルビューティ」への理解を一層深める。	○実習時に自己評価、相互評価等の導入を図り、学生が考えながら苦手を克服する指導を行う。 ○「トータルビューティ」は本校教育に定着しつつあり学生の意欲も高い。今後一層学生の興味・関心を高めたい。 ○学年をまたがる科目について関係機関に助言を受けつつ来年度の教育課程に活かす改善を図った。	B
2 授業内容と研修	○専門分野に実務経験豊富な講師による授業を多く開設し、安心して国家試験受験に対応できる。 ○国家試験向けのオーソドックスな授業が多く、学生の興味・関心を引きつける授業が求められる。 ○学びに関する研修などを通じ教職員の教育力を一層高める必要がある。 ○学生が授業で習得した知識・技能を活かしたコンテストへの挑戦や地域貢献活動への参加を促し地元への意識を高める。	○教職員の専門技術の向上と統一した技術指導を目指す。 ○授業の一部に協同学習やICT活用を取り入れた新たな学びの「鳥理美モデル」にチャレンジする。 ○希望する学生を対象に放課後を活用し、テーマごとに地元のスタイリストの先生を招いた講座を開講し学びの意欲を喚起する。 ○様々なチャレンジや活動を通じ学ぶ意欲を高め、挑戦する心やくじけない心を養い、ふるさと鳥取を愛する気持ちを育てる。	○「学び合い」や「ICT活用教育」まで到達ができなかったが、今後も導入に向けた取組が必要である。 ○放課後を活用した「地域のスタイリストを招いての理美容技術講座」は、9月以降延べ7回実施予定で、学生の意欲喚起に繋げたい。 ○本年度も理美容技術関連の中国・全国大会がコロナ禍で中止となった。第2回校内技術競技会を10月に開催予定で、準備・練習に取り組んでいる。	C
3 生徒募集と生徒支援	○理美容系専門学校を目指す県内高校生の7割が県外へ進学している。 ○入学時の基礎学力や学習意欲に学生個々の差が大きい。 ○学生は落ち着いた学校生活を過ごしているが、学生の多様化を見据え教職員がチームで取り組む学生指導・支援の重要性が高まっている。	○少人数での学び、落ち着いた学習環境、資格取得と就職率の高さなどの特色や学習成果をさらに積極的にPRする。 ○成績処理のシステム化を図り、教職員全員が学生の状況を的確に把握し、一人も取り残さない教育を進める。 ○生徒理解・支援やICT活用などの研修を通して組織としての教育力を高める。 ○すべての面で学生ファーストの意識を持ち教育にあたる。	○総合型入試選抜(旧AO入試)のエントリー数は昨年度を上回る23名(志願者22名)となった。 ○特に総合型入試選抜は試験制度を大幅に変更した。エントリー数より志願者数が1名減少したが、制度変更は概ね高校生・高校の理解を得ることができた。 ○成績処理、学籍簿等の電子データ化、成績処理法の改善を図り、ミスを最小限にすることや学生の状況を共通理解することを意識した取組とした。 ○保護者懇談を2年生は8月に実施し、1年生は9月に実施予定で、保護者に日常の学校生活の様子や進路のこと等について意見交換ができた。	B
4 教育環境の整備	○建物、施設・設備は老朽化が進みつつある。昨年度、多くの修繕を実施し教育環境の充実に努めたが、今後も計画的な施設・設備の更新を検討する。 ○校舎内の環境は日々の清掃が比較的丁寧に行われており、目立った汚れもなく清潔感は保たれている。	○学校営繕費の効果的な運用を工夫し、学校後援会などにも相談しつつ授業環境整備を優先し計画的に更新を図る。 ○サロンワークにつながる整理整頓や丁寧な清掃を心掛け、常に清潔感のある気持ちの良い学びの環境を作る。 ○建物耐震化に向け外部も含めた検討を行う。	○施設・設備の老朽化は喫緊の課題である。昨年度の外壁等につき、エアコンやボイラー等について更新を決定し9月より施工に入る。 ○清掃がやや十分でなく校内の美化が疎かになった。	B
5 学校運営全般	○創立60年を超える伝統校ではあるが、地域の認知や評価を上げ旧来型の学校運営・イメージを変える努力が求められる。 ○理事会、教職員、学生がともに教育目標に対する方向性を揃え、風通しの良い組織の構築を一層進める。 ○若手教員を伸ばす組織的な取組や技術伝承が必要である。 ○新型コロナウイルス感染症等の危機管理を確実に実施する。	○地元を支えられ、地元を支える教育機関、県内唯一の理美容師養成機関として、その役割と責任を明確にし、地元の関連業界の要望に可能な限り応え得る教育体制を構築する。 ○本校で学ぶ目的や将来ビジョンについて、学生、教職員、理事会等の共通理解の下で一層の学校活性化を進める。 ○若手教員育成のため、校内外での研修機会の提供を積極的に進める。 ○危機管理は関係機関と連携し、トップダウンで行う。	○5月の理事会で3期9年間勤められた矢田理事長が勇退された。西尾理事長が6月に就任され意欲的に指導をされている。 ○コロナ禍でマスク生活等不自由であるが、感染防止に最大限の配慮をしつつ学校行事等はほぼ予定の通り実施できた。また、鳥取市、鳥取県等の支援に感謝する。 ○進路指導のシステム化を一層進める必要がある。	B